

令和元年度 第2回 成田市地域公共交通網形成協議会 議事録

1 開催日時

令和元年10月29日（火）14時から15時10分まで

2 開催場所

成田市花崎町760番地

成田市役所 行政棟6階 大会議室

3 出席者

（委員）

関根委員、小幡委員、郡司委員、鵜澤委員（森田委員代理）、加瀬林委員、木下委員、後藤委員、岡田委員、河合委員（鵜澤委員代理）、今井委員、高橋委員、藤田委員（篠崎委員代理）、大川委員、青木委員、谷平委員、山田委員、池田委員（川俣委員代理）、押田委員（若林委員代理）、関口委員、宇野澤委員（小泉委員代理）、小川委員、石橋委員

（合計22名 順不同）

※欠席された委員 深井委員、大出委員、福元委員、宮崎委員、轟委員、伊東委員、斯波委員

（事務局）

都市計画課 高橋課長、芹澤課長補佐、塚本主幹、飯嶋係長、出口副主査

交通防犯課 久能課長、佐藤主査

高齢者福祉課 椿課長、中川主査

4 議題

- （1）地域公共交通網形成計画の基本理念及び基本方針の検討について
- （2）課題を踏まえた地域公共交通の検討について
- （3）その他

5 議事(要旨)

議題（1）「地域公共交通網形成計画の基本理念及び基本方針の検討について」では、地域公共交通網形成計画に定める基本理念及び基本方針について説明を行い、全会一致で案のとおり決した。

議題（2）「課題を踏まえた地域公共交通の検討について」では、今後の成田市の交通体系のイメージについて説明を行った。

議題（3）「その他」では、今後の進め方について説明を行った。

議題（1）、議題（2）及び議題（3）に関する主な質疑応答は次のとおり。

(質疑応答)

議題（１）地域公共交通網形成計画の基本理念及び基本方針の検討について

意見（委員A）

基本方針案について包括的に4つの方針が示されている。6つの課題はわかりやすい言葉で示されているが、基本方針は幅広い視点で示されており、わかりづらく感じる。どのような考え方で基本方針を示したのか。

回答（事務局）

基本方針案については、基本理念を実現させるため、大きな枠組みで示しております。これらの基本方針を実現するための基本目標や施策において、具体的に幅を狭めていく体系づくりを考えております。

質問（委員A）

ブレイクダウンしてわかりやすく具体化していくというイメージで良いか。

回答（事務局）

おっしゃるとおりです。

意見（委員B）

基本方針に、「誰もが安心・安全・快適に利用できる」とあるが、バスに乗車して、鉄道駅、商業施設、文化施設などに素早く行けるとすることも今後必要になる。また、そういったところに高齢者や自動車を持っていない方が行けるようにすることが必要となる。

回答（事務局）

基本方針を実現するためにも、基本目標と施策の段階で検討していきたいと思えます。

意見（委員C）

高齢者になると、外出するのがおっくうになっている。今後、バスやタクシーを利用する方が増えてくると思う。コミュニティバスが運行しているが、時間的な問題や停留所までの移動の問題がある。他の事業としてオンデマンド交通を運行しているが、問題としてオンデマンド交通は予約が必要となる。また、利用者の制限もあり、土日に運行していないなどの制約がある。高齢になり自動車の運転が難しくなり、外出したい時の予約や時間の制約で、行きたいところに行けないなどの問題がある。自動車を運転していくことが危険な場合、免許返納を促進することが必要になる。そのため、自由かつ比較的安価に利用できる交通機関を検討していただきたい。基本方針案の1つ目のまちづくりに対応したネットワー

ク、3 つ目の連携の強化、4 つ目の公共交通の利用促進に対応して、希望としては高齢者が自由に希望する時間、方向に移動できる交通体系を検討していただきたい。

回 答（事務局）

オンデマンド交通の問題等につきましては事業担当課と共有しており、今後高齢者の移動に関して利便性が高いネットワークを構築できるように施策を検討してまいります。

質 問（委員C）

オンデマンド交通の具体的な方策が検討されているのか。検討されている場合、どのような問題があり、どういった方向で進んでいきそうなのか。

回 答（事務局）

オンデマンド交通については、事業担当課と現状の課題を共有している段階であり、具体的な方策の検討には至っていない状況です。今後計画の策定を進めていく中で、事業担当課と詰めていきたいと思えます。

意 見（委員C）

検討していくとのことだが、オンデマンド交通は運行が始まって8年が経とうとしている。実証実験運行が長すぎると思う。既に問題点が浮き上がっているのではないか。

回 答（事務局）

オンデマンド交通の運行が始まって8年目ですが、利用者等のニーズも捉えながら、来年度あたり、運行内容の変更を加えて実証運行を実施してまいりたいと考えております。大きな方向性としましては、地域公共交通網形成計画の協議の中で、交通事業者との合意も含めまして、基本方針、基本目標、施策の動向を見ながら検討していき、最終的な目標を設定していきたいと思えます。

意 見（委員C）

土日の問題、時間の問題、年齢の問題など、利用する場合の制限がある。また、老人クラブなどのイベントを開催する場合、オンデマンド交通の登録車両台数は7台しかないのです、こういった一斉に集まるイベントなどには活用できない。それも含めて、検討をお願いしたい。

回 答（事務局）

今後も、委員の皆様のご意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。

議題（２）課題を踏まえた地域公共交通の検討について

質 問（委員B）

資料3について、例えば、大栄地域に引かれた線はどういった想定で示されているのか。この資料の解釈の仕方を説明願う。

回 答（事務局）

青い幹線軸につきましては、バス路線やコミュニティバスが担い、幹線軸から外れた部分につきましては、オンデマンド交通などにより交通結節点まで移動し、そこから幹線軸によって市街地へ移動するといった動きを図示したものです。

質 問（委員B）

幹線軸に太い交通網があると考え、交通結節点に移動が集約されて、そこまで来れば、市街地まで出て来られるというイメージか。

回 答（事務局）

おっしゃるとおりです。

質 問（委員E）

まだイメージということだが、成田市の特徴として、交通の拠点となる箇所が成田駅・京成成田駅周辺と成田空港周辺がある。この2つの拠点があることが成田市の特徴であると認識している。資料で示しているイメージ図を見ると、基本的には成田空港周辺ではなく、成田駅の方を主軸として、集約できるような交通網を構築していく考えが見える。成田空港という拠点については、どのような取り扱い、考え方になるのか。

回 答（事務局）

成田空港につきましても拠点としての機能が高いと認識しております。図示した内容につきましては、今後、地域の皆様がどのような移動ニーズを持っているのかというところを踏まえ、成田空港の利便性を活かしたニーズが高いということであれば、実際にその点を計画へ反映してまいりたいと考えております。

意 見（委員F）

今回の計画づくりの中で、公共交通の反対側に「非公共交通」となる自家用車、徒歩、自転車、バイクといった、自分の好きな時に移動できる交通手段がある。イメージ図のみでは見えづらいが、例えば、大栄地域や下総地域から街中に通う高校生は、すべからず幹線軸を使って移動しているのか、または女性はバス、男性は自転車で移動しているのかといったような、様々な移動手段が想定される。他に成田市の場合、土地の高低差も影響すると思われる。大栄地域や下総地域か

ら自転車で街中の高校に通う人はいるのか。また、幹線軸の循環について、現状のサービス水準の中で、資料に図示しているようなイメージが実現できるのか、それともサービス水準を上げていくのか。

回 答（事務局）

高校生の中には、鉄道駅から離れた学校に通う際に自転車を使用している学生もおります。どの程度の数があるのかまでは把握できておりませんが、公共交通を利用せずに自転車で通学されている学生も実際にいらっしゃいます。現状のサービス水準によるイメージの実現につきましては、コミュニティバスを乗り継ぐ際は、乗継券により、定額のままで利用できる現状がございます。仮に、オンデマンド交通などの交通手段で鉄道駅まで移動して、鉄道を利用して市街地まで移動すると、コミュニティバスの運賃 200 円と比較して運賃が多くかかることになります。

意 見（委員F）

どういった行動をとっているのかを考慮して、計画づくりを進めていただきたい。

意 見（議 長）

今後、基本目標や施策を設定する際にも具体的な意見が出てくると思われる。今日の意見を踏まえて今後の動きを検討していただきたい。

議題（3）その他

質 問（委員D）

今後の進め方について、市民との意見交換会は、市民全体での意見交換会を開催するのか、それとも 6 地区別で開催するのか。

回 答（事務局）

市内 6 地区別のカルテを資料として示しておりますが、現在、地区割りについて、10 地区で開催するのか、6 地区で開催するのかを調整中です。各地区に出向いて意見交換を開催したいと考えております。

6 傍聴者

4 名

7 次回開催日時

2 月予定

令和元年 11 月 27 日

以上、協議の内容と相違ないことを認め署名する。

議事録署名人 青木 偉年

議事録署名人 今井 信彰